

京都府・京都市

## 琵琶湖疏水記念館

—展示資料を倍増してリニューアルオープン—

喜多直之 編集委員

「疏」という字には流れを切り開くという意味がある。琵琶湖の水を京都に引くという江戸時代からあった疏水構想は、東京遷都によって寂れつつあった京都を活性化するため、京都市民の支援も得て1890年に実現した。当時、主要な土木工事は外国人技師の指導によって行われていたが、琵琶湖疏水は日本人だけで行った初めての大型土木工事である。そこには、生野銀山や安積疏水の工事を経験した技術者に加えて、二人の優秀な技術者が大きく貢献した。測量技師の島田道生と土木技師の田邊朔郎である。島田が調査して描いた目論見図の精密さには目を見張るものがある。また、土木技術者になじみの深い田邊は、疏水工事が始まった後に、水力の利用法を調査するため渡米する。最新の水力発電技術を目にした田邊はその採用を決断し、1891年に日本初の水力発電所を完成させた。

疏水によって京都側に導かれた水は、鉄管を通して32m下の蹴上発電所に流され、荷物を

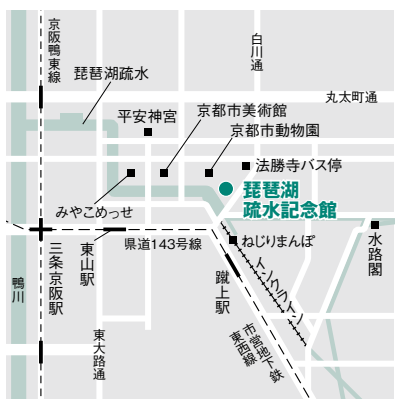
積んだ船は同様の高低差をインクライン(傾斜鉄道)で移動する。完成当時は大勢の人が見物に訪れたようだ。インクラインを見下ろす高台にある都ホテルもそのような客を期待して開業したという。

琵琶湖疏水記念館は現在は使用されていないインクラインの下端である南禅寺船溜

の畔にある。取材に訪れたのはリニューアルオープンした10月30日の翌日で、休日だったこともあり多くの人が熱心に展示に見入っていた。もともこの記念館は疏水完成百周年に合わせて1989年に開館したが、当時は未整理の資料も多く、その後整理した資料が今回新たに加えられて展示物は倍増した。田邊はかなりの収集家だったらしく、疏水の各トネル貫通記念の杯など、細かいさまざまな品が残っている。琵琶湖疏水は近代化産業遺産などに指定されているが、その水は今も京都市で使う水の96%を占める現役の施設である。この辺りは美術館などの文化施設が集まる地区であり、疏水関係でもインクライン、南禅寺を通る疏水分線にある水路閣、美しい煉瓦造の旧九条山浄水場ポンプ室など見どころが多い。この記念館にも京都を中心とした関西の小中学生、修学旅行生を中心に、建設関係の大学生など年間8万5000人が来館することである。

### Access アクセス

所在地 〒606-8437  
京都市左京区南禅寺草川町17  
電話 075-752-2530  
交通 地下鉄東西線蹴上駅下車、北へ徒歩7分  
開館 3月1日～11月30日 9:00～17:00(入館は16:30まで)  
12月1日～2月末日 9:00～16:30(入館は16:00まで)  
※ 動物園からも入館可能  
休館日 月曜(休日・祝日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月3日)  
入場料 無料  
URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000007524.html>





文化施設が多い落ち着いたまちの一角にある琵琶湖疏水記念館



建設当時の貴重な資料が並ぶ館内



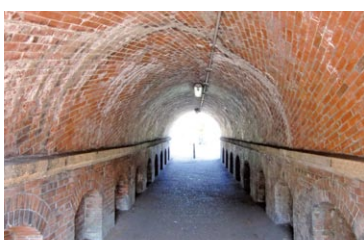
測量に用いられた石点(ベンチマーク)  
(1887～1889年頃)



自動販売機で買える「京の水道 疏水物語」



南禅寺にある人気観光スポット「水路閣」



インクラインをくぐるトンネル「ねじりまんぼ」



自由に歩けるインクラインの坂